

## 全国から見た福井県の酸性雨の特徴とその要因

高岡 大・吉川昌範

福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海地域の自然と環境」、No25、75-92（2018）

福井県の酸性雨は、全国でも酸性度が高い状況が続いている。そこで、全国のイオン成分データを解析するとともに、マッピングや発生源寄与解析（PMF法）を活用し、様々な面から原因の究明を試みた。

グラフ解析およびマッピング解析の結果、冬の季節風によって  $\text{SO}_4^{2-}$ 、 $\text{NO}_3^-$ 、 $\text{NH}_4^+$ 等を含む大陸由来の移流物質が、福井県を含む日本海沿岸部の地域全体に渡って広域的な

影響を及ぼしていることが明らかとなった。さらに、PMF解析を行った結果、移流が硫酸イオン濃度に占める割合は、61.4%、硝酸イオン濃度は85.1%、全体質量としては31.8%と推計された。

また、2011年9月は、移流の影響がないバックグラウンド値を示していたと考えられ、この時の月平均pH5.28が福井県本来のレベルと推測される。